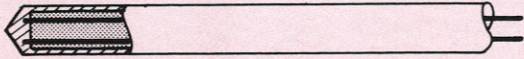


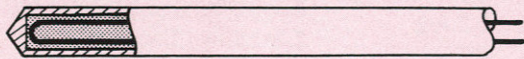
シース型熱電対

●基本構造

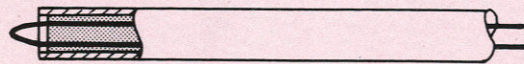
A. 接地型



B. 非接地型

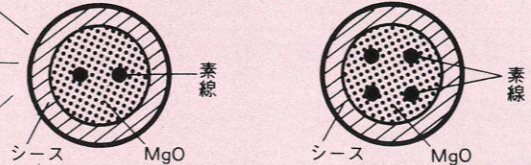


C. 露出型



シングルエレメントの場合

ダブルエレメントの場合



●特長

シース型熱電対は、ステンレス系の金属管に高純度のMgO絶縁物と極細線の熱電対素線を封入し、素線先端を溶接し測温接点を形成しています。

シース外径0.25mmといった超極細のものは、極少部分や瞬時に感応を必要とする部所の温度測定に非常に便利になっています。

●素線の種類

K, E, J, T (22ページをご参照ください。)

●シースの材質

SUS-310S, SUS-316, SUS-347

インコネル600または相当品

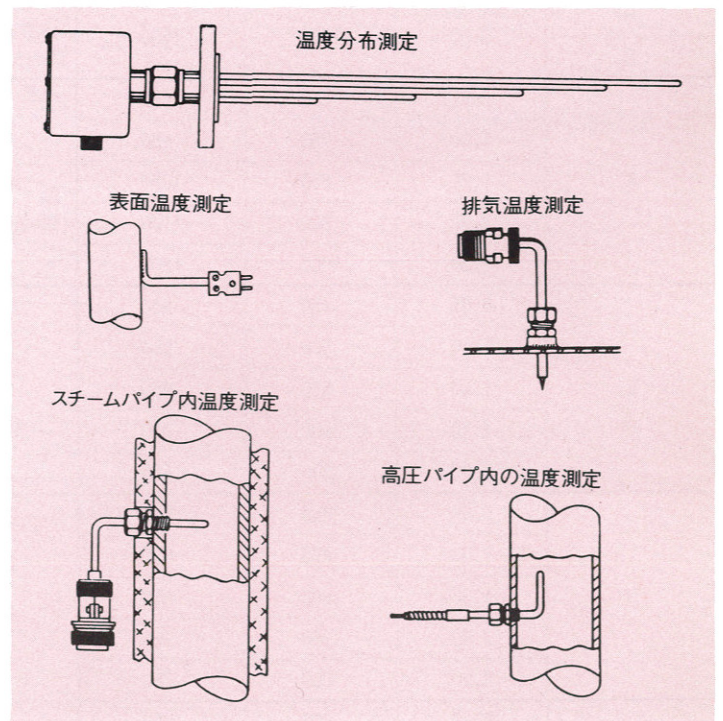
●シースの外径

0.25, 0.5, 1.0, 1.6, 3.2, 4.8, 6.4, 8.0 (φmm)

●用途別

ボイラー、ドラムの管壁温度、流体温度、軸受・ケーシングなどのメタル温度、節炭器・炉の空気ガス温度測定、腐蝕性ガス・液体・高温高圧ガス・液化ガス温度、反応塔の温度分布測定、燃料ピン、冷却水の温度

●使用例



測定、各種炉内・溶鉱の温度測定

高圧高温下での燃焼ガス・排気ガスの温度測定、窯業、船舶、食品工業などのプロセスにおける温度の測定